



# 子どもの未来をみんなで考える

理事長あいさつ

小野 由美子 (おの ゆみこ)



みなさん、こんにちは。

LeaDは、「どこに生まれても、子どもたちが学びのチャンスを持てる社会をつくりたい」という想いから生まれました。仲間や支援者のみなさんと共に、一歩ずつ歩みを進めています。2024年9月にNPO法人として認可されて以来、ルワンダの幼児に関する包括的支援育(ECD)支援を中心に活動してきました。今回は報告が三つあります。

## ルワンダ研修(3/8 発~3/19 着)を実施しました

ルワンダ研修は多くの団体が実施していますが、LeaDでは「参加者の主体性とニーズを最大限に尊重すること」をモットーに、単なる視察に終わらない学びの場をつくっています。初年度は国際基督教大学(ICU)から1名が参加。

参加決定後は毎週1時間程度の事前オリエンテーションでニーズを丁寧に聞き取り、LeaDのネットワークを活用してプログラムを組み立てました。研修の詳細をご覧ください。



## 里親プロジェクト「ウムサポ」送金完了



2025年12月に、2度目の送金を行いました。  
ウムチョムイーザ学園理事長からお礼のメールが届きました。  
ご支援・ご協力いただいた皆さまに、改めて御礼申し上げます。



## 5月から JICA 基金活用事業が正式にスタートします

新年度は5月から、JICA基金活用事業が正式に始動します。事前に対象地区の担当者とも協議を重ね、プロジェクトに参加するECDセンターについても、現地側で選定いただいています。現場に根ざした形で、無理のない一歩から始められる体制を整えています。

小さな団体ではありますが、だからこそ現地の声を丁寧に聞きながら、着実に前に進みたいと考えています。今後とも、応援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## 第1回ルワンダスタディツアー参加報告

LeaD が目指す「学びを通じて誰もが成長できる社会」の実現に向けて、教育や子どもの発達（ECD）、水・衛生、医療、開発課題を現場（ルワンダ）で体験していただく、学びと行動を結びつける研修です。LeaD がこれまで培ってきたルワンダでの経験を生かし、参加者の関心や学びの目的を踏まえて、10 日間のプログラムを構成しました。

### 初めまして

国際基督教大学1年の佐藤あかりです。現在はリベラルアーツ制度の中で哲学や国際関係など幅広い分野を学んでいます。

ルワンダに関心を持ったのは、高校時代の課題研究の授業がきっかけです。大量虐殺という極限的な暴力の後、社会はどのように再建されるのか。今回の研修を通して、国家の制度と人々の生活・世界との接点をより深く理解し、今後の学びへとつなげていきたいと思います。

### ① 実施日程表

日付	内容
3月8-9日	関西空港から、香港、アディスアベバを経由してキガリ着
3月9日	現地関係者から話を伺う／現地の方に教わりながら調理体験
3月10日	Kigali Genocide Memorial 訪問／キガリ市内の飲食店で昼食・関係者から話を伺う／キガリ大学法学部で講義を受ける／Kigali Genocide Memorial 関係者から話を伺う
3月11日	Kicukiro Primary Court 傍聴(通訳の協力あり)／ルワンダ伝統工芸関係者から話を伺う
3月12日	東部県 Kayonza 郡へ移動／Kabarondo Primary Court を傍聴し、関係者から話を伺う／Ready for Reading 訪問／International Women's Day イベントに参加／専門学校生や地域の子どもたちと交流
3月13日	Rwinkwavu セクターで子どもたちと交流／地域保健施設訪問／キガリへ移動
3月14日	Nyamata Genocide Museum 見学／音楽教育活動の現場を見学
3月15日	南部県 Huye へ移動／国立民族学博物館、Murambi Genocide Memorial を見学／ルワンダ・プロテスタント大学で講義を受ける／大学生と交流
3月16日	現地在住者から話を伺った後、Umucyo Nyanza を訪問・見学／Muhanga で地域の方の自宅を訪問／キガリへ移動
3月17日	Umuco Mwiza 学園を見学／Kimironko Market、Kigali Heights、Kigali Convention Center などを見学
3月18日～ 3月19日	ルワンダ大学教育学部3年生56名に対し、研修で学んだ内容についてプレゼンテーションを実施／午後、キガリ国際空港発、アディスアベバ、仁川を経由して関西国際空港着

### 政治と法(公)



日本とは異なる政治・行政のあり方のもとで、政策運営の特徴について考える機会となりました。都市部と地方部の違いや、制度と人々の暮らしとの関係についても、さまざまな観点から学ぶことができました。司法や行政の仕組みが生活の中でどのように受け止められているのかについても、日本との違いを意識しながら考えることが出来ました。

## 子どもたち



本当に可愛かったです。どこの国でも「子どもは子ども」だと感じた一方で、成長や学びの環境には地域や生活条件による違いがあることも感じました。ルワンダ国内でも、都市部と地方部では子どもたちを取り巻く環境に違いがあり、教育や栄養、生活環境が子どもの育ちに与える影響について考えさせられました。

## ルワンダ大虐殺について



被害を生で見る体験は、教科書で学ぶこととはまったく異なる重みがありました。現地を訪れたことで、歴史と向き合うことの重さを実感しました。展示のあり方や記憶の継承の方法についても、多面的に考える機会となりました。

また、「Happiness」について尋ねたときに、ルワンダ出身の学生から「暗い過去を変えていくこと」という答えがありました。1994年を直接経験していない世代であっても、その歴史が人々の価値観やアイデンティティに深く関わっていることを感じました。さまざまな人と話す中で、虐殺の過去が現在の社会や人々の価値観を考える上でも重要な背景になっていることを感じました。

## 😊 What is your happiness? (事前学習で着想を得て、ルワンダ渡航前から進めているプロジェクト)



ICUの学友や旅先で出会った人も含めると、50人を超える人に話を伺い、共通点や違いが見えてきました。アフリカにルーツがある人の中には、家族や国といったより大きな単位で幸福を語る人が多く、それをとても自然に、心から話しているように感じました。

一方で、自分の抱える課題を振り返り、その背景に社会構造や不条理を見いだしている人は、大きな理想を自分ごととして捉えているように思えました。厳しい環境の中でも「現状を何とかしたい」と考えることが、大学で学ぶ動機にもつながっているように感じました。

日本人の回答には、より個人に近い規模のものが多い印象がありました。家族や絆について語る人は、人間関係に恵まれているようにも感じました。また、キガリで出会った人々の答えには、音楽やダンス、スポーツに関するものが多く、「今」を大切に作る姿勢がうかがえました。



## ルワンダスタディツアーを終えて

今回のルワンダでの研修は、私にとって「理論と現実のあいだにある距離」を実感する大変貴重な経験となりました。日本では、ルワンダについて主に書籍や授業を通して学び、ジェノサイド後の社会再建や和解のプロセスを、制度や政策といった枠組みの中で理解してきました。しかし、実際に現地を訪れ、人々と出会い、日常に触れる中で、それまでの理解がいかに限られたものであったかに気づかされました。書籍や理論を通して得た知識だけでは、そこに生きる人々一人ひとりの経験や思いまでは十分に捉えきれなかったのだと実感しています。

現地では出会った方々の温かさやホスピタリティ、穏やかな気候の中で流れる落ち着いた空気、そして日常の中に感じられる前向きなエネルギーは、とても印象的でした。何気ない会話や笑顔の中にこそ、その社会の本質が現れているのだと感じる場面が多くありました。そうした人々の在り方こそが、ルワンダという国の特別さを形づくっているのだと、実際に現地に身を置いたからこそ強く感じています。

また今回の経験を通して、「社会を理解する」ということの意味についても改めて考えるようになりました。これまでは知識として理解することに重きを置いていましたが、実際に人と出会い、その声に耳を傾け、自分自身の前提や考え方を問い直すことの重要性を実感しました。今回の研修は、新たな知識を得るだけでなく、自分の物事の見方そのものを見つめなおす機会にもなりました。

本研修の実現にあたり、ご指導・ご支援をいただいた LeaD の関係者の皆様をはじめ、ご協力くださったすべての方々にも、この場をお借りして深く御礼申し上げます。皆様のおかげで、このようなかけがえのない学びの機会をいただくことができました。

今回の経験を大切に、今後の学びや将来の活動へとつなげていけるよう、これからも努力を続けてまいります。



### おわりに

今回の渡航に際して、協力してくださった皆さま、本当にありがとうございました。志あふれる佐藤さんのお手本になるように話してくださる方、成果も葛藤も率直に共有してくださる方、ご自身の立場ならではの意見をくださる方、新しい視点を提示してくださる方など、さまざまな方に支えていただきました。どの方も共通して、佐藤さんや LeaD に温かく向き合い、お話ししてくださったように思います。

小野・西角



# One Love Projectに参加して

ぐんま国際アカデミー高等部の大津里穂です。12月11日の座談会でお話させていただいた内容を一部ご紹介します。私は高校1年生のとき、文部科学省の官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」第9期生として、ルワンダへ短期留学をしました。ルワンダに関心を持ったきっかけは、ルダシングワ真美さんの講演会で、ルワンダ紛争、30年近く義肢や杖を作り無償で提供し続ける真美さんの生き方に衝撃を受けました。同じ頃、JICAでの職場体験を通して、JICAや協力隊の活動にも関心を持つようになり、日本の支援現場を自分の目で見てみたいと思い、留学計画を立ててトビタテに応募。One Love Projectで16日間、JICAも支援しているUMUCO MWIZA Schoolで5日間、インターンとして受け入れていただきました。

ルワンダのNGO 2ヶ所でインターン  
将来目指す国際協力の形を探りたい



One Love では、リサーチや画像制作を行いながら義手の受け渡しや打ち合わせへの同席など、UMUCO MWIZA Schoolでは、協力隊の先生の授業のお手伝いをしました。また、JICA事務所や現地で活動されている日本人・ルワンダ人の方々へのインタビュー、農村でホームステイや小学校を訪問しました。渡航前にグローバルフェスタで、宍戸さんと松山さんから貴重なアドバイスをいただいたことが、LeaD との出会いです。帰国後は、NGO アフリカ平和再建委員会で約1年間インターン、途上国に楽器を届けるNPO アイメックでも活動しています。

戦後80年を迎えた昨年、アフリカの平和構築だけでなく日本のことも学ばなくてはと思い、広島県主催の「ひろしまジュニア国際フォーラム」に3か月間参加しました。24か国の高校生と核兵器廃絶や平和について議論し、広島宣言を作成しました。群馬県では「県民の平和意識向上」をテーマに山本知事へ「平和意識調査」「意見交換会の実施」「紛争の影響を受けた国への楽器寄付」の提言を行い、現在、県と事業化に向けて活動しています。

ルワンダ渡航前、現地で楽器が不足していると聞き、リコーダーと鍵盤ハーモニカを集めて、UMUCO MWIZA SchoolとJean Claudeさんにお渡ししました。ただ、指導者がいなければ楽器があっても演奏は難しいのではとずっと気になっていました。そのことをLeaD座談会でお話したところ、松山さんにComplexe Scolaire Saint Tarcisiusの子ども達のリコーダーで国歌を演奏している動画を共有していただき感動しました。私は楽器が好きで、地域でブラジル人の子ども達に寄付された楽器でバイオリンを教えますが、30本以上リコーダーを集めてくれたのは彼らでした。音楽を通して支え合える関係が心地よく、音楽には心を通わせる力があると実感しています。



昨年11月に開催されたJICA海外協力隊発足60周年記念式典で、次世代からのメッセージのスピーチを務めさせていただきました。60周年のテーマは「日本と世界を変える力」。JICAでの職場体験から3年間、協力隊やJICAのみなさんに影響を受けてきたこと、UMUCO MWIZA Schoolでの経験にも触れました。会場で宍戸さんが聞いてくださっていてご連絡いただけて、とても嬉しかったです。





Muraho neza, amakuru? (キニヤルワンダ語で、「ご無沙汰しています、お元気ですか?」)  
2025年9月27日・28日に、グローバルフェスタに参加しました。

出来立てほやほやの会報第一号のお披露目です！イベントに出展すると、「ここは、何をしている団体ですか」というご質問をよくいただきます。今回は、会報誌の写真や文章をお見せしながら、この1年間の活動や今後の展望をご紹介できました。江藤先生は、会報をもって、東洋英和女学院大学などのブースに足を運び、地道に広報をしていました。パワフルです。

配布した会報は68部、ブースへ来場された方はもっと多いので、多くの方にLeaDを知っていただけたと思います。

売り上げは、1日目8,300円、2日目11,100円でした。2日目は、森山康子さん(センスと経験をもとに、立ち寄ってもらえるすてきなディスプレイをしてくださいました)、聖徳学園高校2年生(小さい子の目線になって話したり、会報を片手に通路で声かけをしたりしてくれました)という強力なサポートをいただき、より活気あるブースにできました。みなさんに支えられ、充実感でいっぱい2日間になりました。



## グローバルフェスタJAPAN2025

「グローバルフェスタ JAPAN」は、国際協力活動、SDGsなどに取り組む官民様々な団体が一堂に会する実行委員会形式の外務省や JICA が主導する国内最大級の国際協力イベントです。10月6日の国際協力の日に因んで毎年開催されています。今年は新宿の会場とハイブリッド形式で開催され、テーマは「世界を変える、あなたの一步～プラス1の国際協力～」で楽しみながら国際協力について学べるプログラムが多数展開しました。

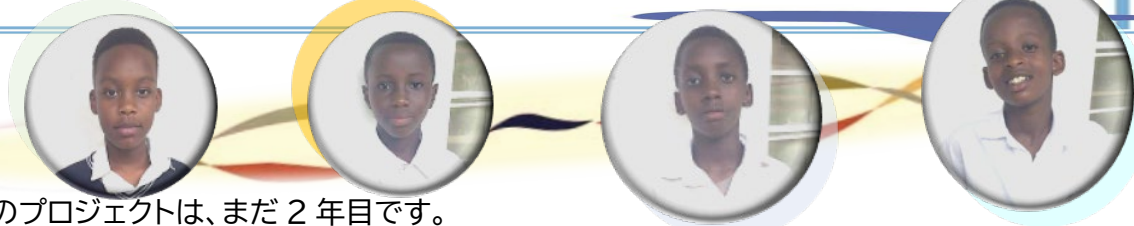
## 里親プロジェクト「ウムサポ」報告

ウムサポプロジェクトも2年目を迎え、今年は6名の里親から支援をいただきました。里親の皆様、ありがとうございます。お預かりしたお金228,000円は、12月に無事ルワンダのウムチョムイーザ学園の口座に送金いたしました。

—理事長からのお礼の言葉—

心より、支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

保護者が学費を十分に支払えない厳しい状況の中で、UMUCO MWIZA 学園を支えてくださっていることに、心から感謝しています。



このプロジェクトは、まだ2年目です。

お互いに、同じ目的を持って進んで行けるように、覚書きを取り交わす提案をしました。また、覚書きを作成することで、想いを言語化することができました。

ウムサポプロジェクトは、経済的に困難な状況にある児童の就学継続を支援し、学校全体の教育環境の向上と両者の友好関係の発展を目的としています。

そして、今回、6人で一つの里親になってくださったグループから、「子どもたちのために、学校で必要な物を買ってください」と、6,000円の寄付をいただきました。学校側と相談したところ、壁掛け時計がほしいとのことだったので、時計を3月に3台寄贈しました。1台は校長室に、もう1台は6年生の教室に、そして最後の1台は5年生の教室に設置



されました。子どもたちも大喜びです。時間を確認しながら、良い習慣が身につくといいですね。

このように、ウムサポプロジェクトは、一步一步進んでおります。

一度に大きなことは出来なくとも、「今より少しでも」をモットーに進んでいけば、いずれ大きな成果に繋がるのではないかと願っております。

また、一方的な支援にならないように学校側と話し合いを重ねながら、よりよい支援の形を模索していきたいと思っております。



## 里親プロジェクト「ウムサポ」寄付募集

～里親制の就学継続支援「ウムサポ」に特化して支援したい人向け～  
ウムサポでは、3つのコースを用意しています。

1.	給食支援コース	月額 2,000円
2.	授業料支援 Aコース	月額 2,500円
3.	授業料支援 Bコース	月額 5,000円

○ 「ウムサポ」支援にご協力いただける方は、右のQRコードから、登録してください。担当より、連絡させていただきます。



## LeaD は皆様の温かいご支援とご協力によって成り立っています。

子どもたちの未来を支えるために、私たちができることを。

LeaD は、子どもたちの成長を支えるために国内外で様々な支援活動をしていきます。

日本国内においては、子ども食堂や学習支援活動等を通じて子どもたちの成長を支援し、海外では、途上国の農村部のように支援が届きにくいところへ教育を中心とした支援を進め、子どもたちが夢を描き、成長できる環境づくりを進めていきます。

どの地域に生まれ育っても、すべての子どもたちが平等なチャンスを得られる社会を目指しています。

LeaD は、支援の届きにくい場所でこそ、その力を発揮する NGO です。

皆様のご支援が、子どもたちの未来を切り拓き、より良い社会をつくる力となります。

### 年会費(賛助会員)募集

個人会員 一口 5,000円 法人・団体会員 一口 10,000円

学生会員 (大学生まで) 一口 1,000円

頂いた個人情報は、当方にて厳重に取り扱い、本人の同意なく他者に情報提供することはありません。

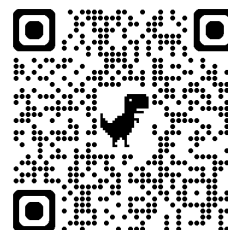
### 振込先

GMO あおぞらネット銀行 法人営業部 普通預金 2141123

口座名義 : トクヒラーニングアズディベロップメントフォーオール

東京信用金庫 江戸川橋支店(016) 普通預金 4076843

口座名義 : トクヒラーニングアズディベロップメントフォーオール



会員・寄付  
申し込み  
フォーム

今年度から「会費ペイ」を通じて、クレジットカードまたは口座自動振替による会費支払い方法(自動更新)を導入しました。引き落とし日は、26日となります。(ウムサポの支援金は対応していません)

\*LeaD は現在「(特例)認定 NPO 法人」ではないため、寄付控除はありません。

皆様のお力添え、何卒宜しくお願い致します。詳しくはホームページをご覧ください。

### - 編集後記 -

LeaD 会報 2 号をお読みいただきありがとうございます。また、原稿・写真のご提供などいただきました方々には心より感謝申し上げます。

新しい年度が始まろうとしています。街にもフレッシュな空気が流れています。私たちも 3 月に新たな企画スタディツアーを実施できました。それぞれの得意分野で前進していきたいですね。どうか素敵な春をお過ごしください。

会報係力を合わせて、これからも「楽しい!感動!」を言葉と写真で皆様に届けます。次号は 10 月発行予定です。お楽しみに。

今後とも会員皆様のご理解とご協力の程をよろしくお願い致します。 -KE-



特定非営利活動法人

Learning as Development for All

理事長 小野 由美子

副理事長 穴戸 なつ美

副理事長 西角 祐香

E-mail : lead20240924@gmail

<https://lead2024.qc-plus.jp/index.html>

